2009.2.7

ＥＴＶ５０年＆ＦＭ４０年で振り返る

カラヤン等の巨匠がNHKに残した音源とエピソード

辻 本　廉（NHK メディアテクノロジー）

イントロダクション

2009 年は教育テレビの開局から 50 年、またＦＭステレオ本放送の開始から 40 年という区切りの年に当り、ＦＭ放送の源流（モノ実験放送）は 52 年前にまで遡る。この約半世紀の間に、「10 年一昔」といわれるとおり、ほぼ 10 年ごとに出現した新しいメディアや技術によって放送されてきた名演奏を、可能な限り掘り起こしてみたいものである。

(注)1957 年：FM モノ実験放送開始　　1959 年：教育テレビ開局

1969 年：FM ステレオ本放送開始、世界初の PCM(デジタル)録音機発表

1978 年：テレビ音声多重放送開始（1990 年：教育テレビの音声多重放送開始）

1979 年：PCM 録音機実用化、FM 用 PCM ステレオ回線開通　1982 年：CD の登場

1984 年：BS 実験放送開始 1989 年：BS 本放送開始 2000 年：BS デジタル放送開始

話題１「バイロイト音楽祭 1952」と「バイロイト音楽祭 2008」にみる海外音源今昔

ＦＭ放送の人気番組の一つは海外からの音源の放送。この種の番組のルーツは 1952 年のラジオ第２放送である。この年、突然バイエルン放送協会から送られてきた大量のテープをＮＨＫはどうしたか？　そして、半世紀後の音源配信の仕組みはどうなったか？

話題２　ＮＨＫ最古の来日演奏家のステレオ音源

1957 年 11 月３日の旧ＮＨＫホールでのカラヤン指揮ベルリン・フィルの来日初演奏は、ラジオ第 1 放送とテレビの同時生放送と同時にステレオで録音された。一部欠落はあるが近年になってフィルム録画映像と合成され、ＤＶＤにもなっている。

話題３　カラヤン指揮ウィーン・フィル来日演奏の未放送ステレオ録音（1959.10.27）

この組み合わせでは唯一となった 1959 年の来日演奏は、この年に開局した教育テレビでも放送され、初めてＶＴＲも使用された（その映像は残っていない）。２年前のベルリン・フィルと同じく、旧ＮＨＫホールではステレオ録音が行われたが、未放送のままになった。

話題４　ベーム指揮ウィーン・フィルの初来日公演から

ステレオの全国放送がアナログのコピーテープ頼みで、Ｓ/Ｎの悪い放送しかできなかった時代の、ＮＨＫホールの聴衆を熱狂させたブラームス「第 1」の一部を聴く。この録音も当時の２インチＶＴＲのモノ音声をステレオ化するために使われた。（1975.3.17）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝　（休　憩）　＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

話題５　カラヤン指揮ベルリン・フィルの普門館公演で初のデジタル録音

1979年は、PCM(デジタル)録音機が1969年の実験機発表から10年後にしてやっと実用段階に到達した年。同時に電電公社（現ＮＴＴ）のPCM(デジタル)ステレオ回線が全国に向けて開通し、３年後のＣＤ登場を加えて、ＦＭ放送は新時代に入った。カラヤン自身が希望した巨大ホールにPCM録音機を持ち込んでの初録音となったシューベルト「未完成」の一部を紹介。(1979.10.18）しかし、この一連の音源は複雑な経緯で残ったのである。

話題６　クーベリック最後の来日公演～サントリーホールの「わが祖国」

1990年５月に祖国に復帰してチェコ・フィルを指揮したクーベリックは、翌年11月にチェコ・フィルと共に来日し、サントリーホールで「わが祖国」を演奏した。当時のＢＳ・Ｂモードステレオ放送を完全に再現したＤＶＤの音源で、「モルダウ」を紹介。(1991.11.2)

話題７　シュタイン追悼～地震の放送には勝てなかったベートーベン「弟７」～

昨年亡くなったＮ響名誉指揮者のホルスト・シュタインの指揮でベートーベンの交響曲第７番の一部を聴く。(1996.10.18　ＮＨＫホール）この演奏中、ＦＭ生放送は地震による津波情報で中断し、そのまま終了となった。しかし、実はそれだけでは済まなかった・・・。

話題８　マルタ・アルゲリッチとネルソン・フレーレのピアノ・デュオ

オーケストラ音源が続いたので、最後にピアノ二重奏（２台ピアノによる）を紹介する。サントリー・ホールでの演奏で、ミクシングは私自身である。(ほとんどメインマイク２本だけの完全なワンポイント収録のラヴェル「ラ・ヴァルス」2003.10.20)

＊　＊　＊　＊　＊　＊

（番外編）デジタル技術とアナログ技術のすみわけ

90年代以降、放送の全系統は急速にデジタル化が進んだ。ＦＭやＡＭ、アナログテレビ放送は、機器のデジタル化で高音質化したが、しかし、100%良いことばかりではなかった。デジタル制作された信号はアナログ放送にとって負担の大きい面もあり、アナログ放送に適したデジタル技術を探る必要も生じたのである。時間があればこの話題にも触れたい。

プロフィール

1944年広島県生れ。幼少より音楽好きでピアノを学ぶが、電波やオーディオへの興味も断ち難く、結局工学系に進む。1969年ＮＨＫ入局。４年の松江局勤務後、放送技術研究所音響研究セクションへ。ステレオ音響技術、放送システム・機器の音質評価技術の研究を担当。13年後、制作技術部門へ移り、主として音楽番組のミクシングを担当する傍らで、ＢＳ・ＦＭ放送のデジタル音声制作技術の開発、音声放送系統の音質改善研究に従事。

1993年から（阪神大震災を含む）３年間、大阪放送局勤務。2001年退職して関連会社に転籍し、引き続き音声制作に関わる。2008年第２の定年に到達。

これまでの担当番組　（記憶・印象に残っているものの一部を、いくつか挙げます。）

○クラシックコンサート「ウィーン木管アンサンブルの夕べ」
（ＦＭ　1988年11月21日　505スタジオ生放送）
○クラシックコンサート「クロード・エルフェ ピアノリサイタル」
（ＦＭ　1989年 2月20日　505スタジオ生放送）
○ＦＭリサイタル「アンサンブル・アルゴス（現アルゴス・カルテット）」
（ショスタコーヴィチ：弦楽四重奏曲第１番ほか、1999年１月 14日放送）
○ＦＭステレオ・オーディオドラマ（ダミーヘッド録音によるバイノーラル・ステレオ）
特集・スペースアドベンチャー「サラマンダー殲滅」（1991年６月・15回連続）
○ＮＨＫ交響楽団定期公演ＢＳ/ＦＭ生放送
山下一史指揮　ストラヴィンスキー「春の祭典」ほか（1989年４月 19日）
尾高忠明指揮　エルガー「交響曲第１番」ほか（1991年 11月 20日）
Ｐ．スタインバーグ指揮　ホルスト「惑星」ほか（1992年 10月１日）
○「ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 150周年記念コンサート」
（1992年３月 22日ウィーン楽友協会大ホールでハイビジョン収録、
チーフ・ミクサー/ＯＲＦ、音声後処理/ＮＨＫ　1992年 アナログ HV、ＢＳ２）
○「アルゲリッチ＆フレーレ ピアノ・デュオ・リサイタル」
（2004年２月 ２日　ＦＭ　ベストオブクラシック）
（2004年２月 28日　ハイビジョン・クラシック・スペシャル）
（2004年４月 30日　ＢＳ２　クラシック・ロイヤルシート）
○「福田進一/エドゥアルド･フェルナンデス　ギター・デュオ・リサイタル」
（2004年９月 23日　ＢＳ２　クラシック倶楽部）

（以下はアーカイブス素材復刻業務）
○ 教育テレビ 40周年記念「20世紀の名演奏」第１夜～第８夜
（1999年１月～2000年８月放送）
○「思い出のシンフォニー」（第１回：2001年４月 29日放送～第５日曜日放送、後に
「思い出の名演奏」に改称）

○ ＢＳフジ「日本フィル・シンフォニーコンサート」（2001年 10月から）
（ステレオ音源の存在する曲目の技術処理　～オクタヴィア・レコードでＤＶＤ化）

○「ＮＨＫクラシカル」シリーズＤＶＤ（ＮＨＫエンタープライズ、2006年発足）
（技術処理とりまとめ、素材収集と音声同期処理を担当）